



庄原市学力向上検討委員会第1回全体研修会の研修風景

# 学力調査結果から 今後の取り組みへ

本年度実施した、全国学力・学習状況調査および広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果は次のとおりでした。  
市教育委員会は、これらの調査で得られた庄原っ子の姿を把握・分析し、今後、児童・生徒一人一人の学力向上を目指す取り組みを進めていきます。

教育指導課指導係 ☎0824-73-1184



## 全国学力・学習状況調査の結果

文部科学省が行う、全国学力・学習状況調査が4月20日に実施され、小学校6年生と中学校3年生が参加しました。

### (小学校6年生)

教科	庄原市	広島県(公立)	全国(公立)
国語A	85.6	85.3	83.3
国語B	79.4	81.1	77.8
算数A	75.7	77.3	74.2
算数B	50.3	51.9	49.3

※Aは基礎的・基本的な内容、Bは思考力・表現力を問う内容  
※数値は抽出調査校の平均正答率(%)

### (中学校3年生)

教科	庄原市	広島県(公立)	全国(公立)
国語A	73.9	76.0	75.1
国語B	66.0	65.7	65.3
数学A	62.3	64.9	64.6
数学B	41.4	43.3	43.3

## 広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果

広島県教育委員会が行う、「基礎・基本」定着状況調査が6月8日に実施され、小学校5年生と中学校2年生が参加しました。

### (小学校5年生)

教科	庄原市	広島県
国語	83.4	82.3
算数	80.1	79.0

※数値は平均通過率(%)

### (中学校2年生)

教科	庄原市	広島県
国語	81.5	77.5
数学	73.2	72.6
英語	71.3	70.2



広島県「基礎・基本」定着状況調査では、小学5年生および中学2年生ともに、全ての教科で県平均通過率を上回る数値でした。

これは、昨年度の調査結果を踏まえ、各学校で授業改善が計画的に行われたことや、学力向上検討委員会の協議を通して、市内全校で家庭の協力を得ながら「家庭学習の充実」を図ったことが、成果につながっていると考えられます。

全国学力・学習状況調査では、全国平均正答率におおむね近い数値となりました。しかしながら、活用する力を必要とするB問題の平均正答率が、A問題に比べて低くなっています。これは、習得した基礎的・基本的な内容を活用して考えたり、表現したりすることが不十分であることを示しています。

これを受けて、9月16日に庄原市学力向上検討委員会全体研修会を開催しました。この会では、児童・生徒の学力の定着状況を把握・分析し、各学校の取り組みを交流・協議して授業改善に生かしています。

本年度は、授業づくりの基本である「板書」を授業改善の視点に入れ、児童・生徒一人一人の学力向上を目指します。

### 「板書」とは？

教師が、黒板にチョークで文字や図などを書いて教えることです。学習内容の要点や児童・生徒の考えなどを分かりやすくまとめて黒板に書き示す、一般的に用いられる指導方法の一つで、「板書」が児童・生徒に分かりやすいことが、学力向上の重要なポイントです。

学ばせたい知識や考え方を分かるように工夫して「板書」することが、教師の指導力の向上につながることに、児童・生徒に基礎的・基本的な内容を確実に定着させ、思考力・表現力の育成を図ることにつながります。



## 確かな学力の向上を目指して



庄原市学力向上検討委員会  
和田 啓介 会長

各種の学力調査結果が公表されました。わたしたちは、その「数値(平均正答率など)」とともに、「わたしたちの学校の児童・生徒」や「わが子」は何かできて、何ができなかったかをしつかりと分析することが大切です。市内の各学校では、正答率の低かった問題を全教職員で解いてみて、子どもたちのつまずきの原因を明らかにした上で、それを授業改善に生かすなどの取り組みを進めています。

先般、全国学力テスト3年連続第1位の秋田県の教育について学ぶ機会がありました。秋田県の先生は、好結果の理由を問われると「当たり前のこと」を当たり前に取り組んでいるだけ」と皆一様に答えられます。では「当たり前のこと」とは一体何なのでしょう。教師が、子どもたちの宿題や自主学習ノートを即日

確認する、ノートの整理の仕方を指導する、板書を工夫する、授業で話し合いを多く取り入れる、教師の研修の充実を図るなど、わたしたちも今取り組んでいるものばかり。これが「当たり前」の内容です。しかし、そこにこだわりをもってやり続ける姿に、「子どもが力を付けるためには何でもやってやろう」という気概を感じました。

また、秋田県では「わか杉っ子学級の十か条」と呼ばれる、子どもたちの学びにとって重要なポイントを整理して発表しています。そこでは「早ね早おき朝ごはんは家庭学習」「読書で拓く心と世界」「決まり、ルールは守ってあたりまえ」「いつも気を付けている言葉遣い」など、学校のみならず家庭生活にかかわる内容も、子どもたちの学力を支える上で重要であることが強調されています。

今までできなかったことができたり、分からなかったことが分かったりする時に見せる子どもたちのあの笑顔や達成感。それを求めて、学校と家庭が連携した意図的な取り組みをさらに進めていきたいと思えます。